



2011-12 黙想と祈り

ギョーム・ヨゼフ・シャミナード師のように
マリアと共に
私たちは新世界に向けての預言者となる

黙 想

シャミナード師は当時、これからの教会は“マリアの時代”になると意識していました。師によると、マリアのこの使徒としての役割は、彼女の霊的母性の当然の帰結でした。師が確信したのは、聖母マリアの「そのすべての大望は、慈愛によってみ子の後にお産みになったすべての子供たちが、み子に非常に強く結ばれて、皆、同じ一人の息子、同じ一人のイエス・キリストとなることにある」（シャミナード師の手紙、第三巻、728号、246ページ）ということでした。

師は、マリアニスト家族の将来の使徒的活動において、ダイナミックで具体的な役割をマリアに帰することによって、結果的に、あの預言的な直感を確認することになる、と十分に認識していたのです。従って、創世記の預言と十字架上のイエスがその母を遺言として私たちに与えたという聖書の言葉（ヨハネ 19・26）との関係は、シャミナード師にとって、教会におけるマリアの使命を正当化するもう一つの裏付けとなりました。マリア会創立の折りに、ララン師に「親愛なる息子よ、謙遜にあの婦人のかかととなりましょう」ということを表明した時、シャミナード師の念頭にあったのは、あのおとめマリアの使命です。その真理を、私たちは毎年の12月8日（無原罪の聖マリアの祭日）に祝うのです。私たちは、真のエバ、すべての人の真の母であるあの婦人を特別に祝います。3章の15節にある創世記の預言のこぼを聴いてみましょう：「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」ここで問題になっている子孫というのは、神秘体の頭であるキリストであり、その母はマリアです。聖なるおとめマリアの宣教者である私たちマリアニストは、（キリストに起こったように）障害が起こっても驚いてはなりません。これこそ、私たちに先立って神の国に入っている私たちのマリアニスト兄弟姉妹殉教者が、私たちに証ししてくれることです。確かに、キリスト及びマリアに対する愛のために血を流した多くの殉教者たちがいます。しかし、無原罪の聖母を祝うことは、おとめマリアの協力によって得られた勝利のことを私たちに思い出させてくれます。イエス・キリストの教会が迫害を受けるのなら、聖母マリアの使命を助けるために一緒に集まることを望んだ私たちが迫害を免れることができるのでしょうか。私たちは、マリアの子であると宣言する者、善を行うことを望む者ではないでしょうか。私たちは、蛇に対して宣言されたあの預言によって与えられた力で強められている者ではないでしょうか？

シャミナード師は、私たちがマリアの“時”に生きていること、また、マリアがあらゆる形の悪に対する戦いにおいて自分を援助してくれる使徒たちを必要としていることを、私たちに思い出させてくれます。おとめマリアが私たちに託した使命を確実に成功させるために、マリアの導きに身を委ねましょう。そして、マリアが私たちをその最初の子であるイエスのみ姿に形造られるままに任せましょう。

今日でも、シャミナード師は、私たち一人ひとりをもう一人のキリスト (alter Christus) になるよう招いています。師は、私たちが“キリストに似た者” になることを望んでいます。キリストとの一致は、私たちが目指すべき究極的な目標です。あらゆる種類の罪や自然災害に傷つき、人間の無力さに直面しているこの世の中にあって、信仰というものは、私たちがキリストに一致させ、キリストに似た者にするということを心に留めましょう。この類似は、全人格に浸透するにいたるまで、私たちの中で深まることができます。

シャミナード師の生誕を記念するこの一年にあたって、マリアの使命を援助するために、私たちが彼女の真の使徒となるよう主が助けてくださいますように、シャミナード師の取り次ぎを願います。

祈り

- 1) 私は、父と子と聖霊である神と、恵みによって彼らとともにいるマリアの現存に身を置きます。
- 2) 12月8日(無原罪の聖マリア)のミサの朗読箇所から一つを選んで読み直すこと：
 - 創世記 3・9-15, 20
 - エフェソ 1・3-6, 11-12
 - ルカ 1・26-38

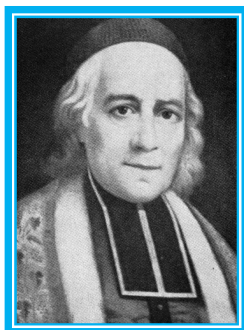
マリアと共に上記の箇所について黙想します。そのテキストに照らして、マリアの召命及び使命について観想します。私は、神がマリアを神の被造物と全人類に誉を与え、悪に勝利する“パナギア”(いと聖なる者)として見ているように、私も見る事ができますように神に求めます。

蛇の頭を砕くマリアの姿について観想します。

他の方々と一緒に祈っている場合、しばらく沈黙の祈りをしてから、その実りを分かち合うことができます。

- 3) おとめマリアへの祈り
 - ロザリオの一連(共同意向を表明してから)
または
 - 聖マリアの連願の一つ
- 4) 福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードへの祈り：

福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード師、教えてください：



- 不正義、権力への渇き、奔放な物欲、個人の快樂への傾きにも拘わらず、世の救い主及び解放者はイエス・キリストであるという確信を持って、イエス・キリストに対するあなたの信仰を模倣することができますように。
- こんにち 今日の世界の現実と接することができますように、雲の上にいるように、無関心な生活を送ることがないように。
- 私たちの信仰は宝ものであること、それを他の人たちと分かち合わなければならぬことを認識しますように。

- 洗礼を受けた者として、私たちが、自分には何の功德もなく、ただキリスト自身の愛によって召され、遣わされていることを自覚することができますように。
- キリストの勇氣に倣って、自分たちがキリスト者であり、マリアニストであることを公にする際に感じる恐れを克服できますように。
- イエスの弟子であり、マリアの子供である私たちのアイデンティティーを、確かなものにすることができますように。
- あなたの宣教的な創造性からインスピレーションを受けることができますように。また、どこであろうと福音のメッセージを伝えようとして献身している人々から話を聞く機会を設け、恩恵を受けることができますように。
- 自分たちは福音宣教が唯一の使命である教会のきわめて重要なメンバーである、ということを感じ取ることができますように。
- 教会の使命達成のために、どのように自分たち自身と自分たちの時間を寛大に捧げるかを知ることができますように。
- 信仰及び正義を発展させることがいちばん必要な場所で私たちが働けますように。
- … (個人の意向)

終結の祈り

主よ、あなたは おとめマリアの無原罪の御宿りを通して、御子にふさわしい住まいを準備されました。あなたは御子の死から前もって得られた恵みによって彼女をすべての罪から守られました。どうか、いと潔き母マリアの取り次ぎによって、私たちもすべての悪から清められ、あなたのもとに近づくことができますように。

コンゴ共和国のボカにて 2010年5月24日
マルセル・ロザリア・ロゼンベ土, sm



IL CARAVAGGIO – Madonna Palafrenieri (Madonna with the serpent)
– 1606, Galleria Borghese, Rome –

カラヴァッジョ『聖アンナと聖母子』別名『蛇の聖母』(1606年頃)

ボルゲーゼ美術館 (ローマ)